



みなみの風9月号

【発行日】
令和6年9月30日
【発行者】 学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
重点目標 「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～

田んぼの稲刈りの様子が見られ、やっと秋らしさを感じるようになりました。子どもたちにとって貴重な時間である休み時間ですが、暑さ指数が基準値を超え、外での活動が禁止となる日々を寂しく感じました。今月下旬になって、ようやくグラウンドで遊びまわる子どもたちの様子を見て、本当にうれしく思います。

恐らく、特別な冷夏でない限り、酷暑が続く7～9月の教育活動を本格的に見直ししなければならない状況にあります。保護者や地域の方々には、適切な時期に変更点をお知らせしていきたいと考えています。

みなみ風コンサート大成功！～感動をありがとう～【9月27日】

9月に入り、本格的に「みなみ風コンサート」に向けた学年練習が重ねられ、校長室にいるとその歌声がよく聞こえてきました。「元気で迫力があるけど、音程が…」「とてもきれいな歌声だけど、声量が…」「一人ひとりがしっかり歌っているようだけどまとまりが…」等、練習し始めの頃はそのような思いを感じていました。

日が経つにつれ、先生方の要求も徐々に高度なものになり、子どもたちもよりよいものを目指していることが、聞こえてくるやりとりから実感できました。これも合唱をとおした大きな学びといえます。

学校公開日にリハーサルを実施しましたが、保護者の皆様には子どもたちの姿はどのように映ったでしょうか。一生懸命合唱に取り組んでいるその一時をご覧いただきましたが、我々教職員は、その練習過程、成長過程を共有できるということ自体が喜びとなります。私も直接指導はしていませんが、時には校長室で聴きながら、時には体育館で練習している様子を見ながら、小さく感動していました。

さて、当日ですが、歌と向き合うすてきさんたちは、力を出し切ったように思います。どの学年もとてもすてきだったのですが、とくに、声量に悩みがあった

6年生の発表には、無意識に鳥肌が立ち、心が揺さぶられました。コンサート最後の出番で、最終学年としての意地もあったのかもかもしれませんね。

コンサート当日は、スペースの関係で保護者の参観は不可とさせていただき、申し訳ありませんでした。ご理解くださったことに感謝いたします。



学校公開に多校の方々のご参加をいただき、ありがとうございました

9月25日の学校公開では、平日にもかかわらず、本当に多くの保護者や地域の方々にお越しいただきました。本校の教育はまだまだ発展途上かもしれませんが、多くの方々から期待が寄せられ、温かく見守られていることを実感しています。今後も予定されているや運動会や公開日、PTA 懇談会等においても、ぜひご来校ください。改めてありがとうございました。



「子育てアラカルト④ ～失敗は尊い～」

子どもたちがこれから生きていくうえで、すべてうまくいく(成功)ということはありません。必ずうまくいかないこと、いわゆる「失敗」が伴うことでしょう。それは、教職員や地域の方々、そして保護者も含めた大人も同様であり、私自身もこれまで数えきれないほどの失敗を重ねてきました。

以前、新聞を読んでいたら、次のように書いてありました。「偉大な発明家の系譜をたどると、共通点が浮かび上がってくる。困難にくじけず、挑み続ける根気強さである。『私は今までに一度も失敗をしたことがない。電球が光らないという発見を2万回しただけだ。』白熱電球や蓄音機の生みの親エジソンは、失敗に学ぶ姿勢の大切さを述べている。」と…。私は、「失敗」という捉えが、大きく変わりました。

確かに失敗は避けたいというのが正直なところだと思いますが、その失敗を生かし、そこから学べばその失敗は価値あるものになります。家庭・学校・地域が連携して、失敗を恐れずチャレンジする子をぜひ育てたいと強く思います。ただし、安易に失敗をしてもよいということではないと考えます。一生懸命考え、自分で判断し、その時点で一番よいと思われるものを選択することが大切ではないでしょうか。「軽い失敗」というものはなく、それはただの「手抜き」に見えてしまいます。子どもの果敢に挑戦している姿を応援し、もし、「いわゆる失敗」をした時に、大人はどんな一言をかけるとよいのかを、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

貴重な体験をとおして ～ 5年生 稲の収穫 ～

「令和の米不足」が心配されましたが、店頭では、だいぶ新米が並ぶようになってきました。若干値上がりしているのが気になりますが…。

地域の方の協力を得て、5年生が稲の収穫を行いました。思いのほか慣れた手つきで鎌を使って収穫する姿は、なかなかのものでした。

米作り体験は、多くの学校で実施されていますが、本来は水の管理や雑草対策など、様々な苦心があり、本当の体験をするということはなかなか難しいのが実際です。

ただ、一部の体験であっても、学びはたくさんあります。今回の学びから、5年生が日常生活にどう生かしていくのが楽しみです。



防災について学ぶ ～ 4年生校外学習～

石川県では、元日に発災した地震の復興途中であるにもかかわらず、過日の集中豪雨により、さらなる被害を受けました。本当の苦しみは分かり切れないところですが、心からお見舞い申し上げます。

さて、本校の4年生は、9月5日に神奈川県総合防災センターと藤沢市湘南台文化センターへ校外学習に行ってきました。当日は欠席者もなく、全員で行けたこともよい思い出になったことでしょう。

いずれの見学先もとても充実したプログラムが用意されており、4年生にとってよい刺激となったようです。とくに、防災センターでの「震度7の体験」では、直後に、「本当に怖い時には、叫び声も出ないことがわかった」と言っている子がいました。まったくそのとおりだと思えます。

南海トラフ地震が話題になった8月ですが、今一度防災のことについて、考える時が来ていると感じている今日この頃です。



大きく育て！ ～ 2年生 大根の栽培 ～

町内の異校種連携の一環で、県立吉田島高校から2名の先生をお招きし、2年生が大根栽培の極意を教わりました。

聞くところによると、昨年度も2年生がお世話になり、子どもたちも教職員も驚くほどの収穫ができ、給食にもその大根が使用されたとのことでした。

私は、子どもたちがお世話になる前に、下準備の様子を拝見していたのですが、やはり専門の方のこだわりには特別なものがあります。その様子も、子どもたちに見せたかったなと思いました。

夏野菜を育てた2年生ですが、暑い中、汗をかきながら水やりをする姿を見かけました。大根も植えただけでなく、しっかり世話をすることを期待しています。



開校 15 年目を迎え ～ 9月 20 日の朝会にて～

開校15年目を迎えた本校ですが、この半年間、子どもたちが校歌を大切にしていると感じました。これはどの学校でも同様と思われるかもしれませんが、これほどの学校はなかなかありません。

節目の一つであるこのタイミングで、校歌作成に携わった方をお招きし、当時の思い出と、歌詞に込められた意味についてお話しいただく機会を設けました。本校の開校に関わったこの方は、その時の子どもたちの姿を見て感動し、現在では、近隣小学校の教員としてご活躍されています。自身の出身校の校歌は、今でも口ずさむことができますね。



命はかけがえのないもの…

～9月21日から30日は、秋の全国交通安全運動推進週間です～

学校周辺の一角で、一定数のハチが飛んでいるという情報が入り、登校時のある期間、私は安全指導で街頭に立ちました。あいさつ等は以前よりよくできていたのですが、横断歩道で手を挙げて渡るという姿がほとんど見られず、改めて指導した次第です。

その場所は、通学路点検において、交通量が多い割には信号がない箇所、危険性がある場所と認識されました。手を挙げることは、車の運転手に自分の存在を示すことであり、本来ならば横断歩道を渡る意思があることを示すために、待機しているときから挙げるのが望ましいとされています。全く恥ずかしい行為ではなく、かけがえのない命を守るために確実に行ってほしいと願います。

今日まで、秋の全国交通安全運動推進週間です。この期間に限らず、自分の命は自分で守ることをご家庭においても話題にしていただければ幸いです。